

東京七座会だより

平成22年春号 (No.7)

青葉若葉が目にしみる、すがすがしい季節です。故郷の5月も満開の桜がいつしか葉桜となり、かざす手のひらも青くそまり、そんな行く春を惜しみつつ新緑に目をうばわれる時節でしょうか。

会員の皆様にはお変わりなく、お健やかに暮らしのことと存じます。

昨年のふるさと会は、東京七座会が6月28日に上野『ホテル丸谷』で開催しました。

岩崎久憲さん(32)、小笠原次男さん(33)、田村重英さん(38)の初参加もあり26名の出席で近年にない賑わいの会となりました。

第22回東京鷹巣会は約150名の出席(当会から12名の参加)で、

例年通りの九段下『ホテルグランドパレス』で10月25日に開催されました。

会員の動向については、住所不明7名で現在142名の会員数となっております。

住所不明者

小笠原弘美 成田 寛
野呂 行雄 藤田 敏
佐藤賢四郎 荻山栄子(熊谷) 三浦キサ(木村)

《順不同敬称略》

転居先不明となられてる方々については皆様からの情報をお寄せ下さるようお願いいたします。



【H21東京七座会】余興の獅子舞
南京玉すだれ



**アマランサス
収穫がピーク**
北秋田市前山地区
北秋田市前山地区で、休耕田を活用して栽培した雑穀

の一種アマランサスの収穫がピークを迎え、地域住民らが連日作業に汗を流している。雑穀作りを通じて地域活性化を図ろうと、同地区の食品組んできた。このうち、四十坪に作付け



【H21東京鷹巣会】津谷市長を囲んで

七座のあれこれ

七座に関する新聞記事を見つけました。10/13付の秋田さきがけ新報に掲載されたものです。

ピークを迎えているアマランサスの収穫

定。農薬を使わなかったため除草作業に手間取った上、全体の収量が当初の想定より下回る見込みだが、「今年の反省点を生かして来年の成功につなげたい」と熊谷さん。収穫した雑穀はすべて自社で買い取り、「あきた雑穀村」の商品名で販売する予定。

会社社長熊谷良一さん(55)らが今春から、休耕田計八カ所(計二畝)でヒエ、アワ、キビなど六種類の栽培に取り組みました。このうち、四十坪に作付け

した南米原産のヒユ科植物・アマランサスは、大きいもので草丈約二尺に成長。刈り取りと脱穀はすべて手作業で、熊谷さんらは赤紫色の穂をビール瓶などで丁寧にたたき、直徑一二センチほどの実を取り出していた。実は乾燥させた後に機械で選別し商品化される。